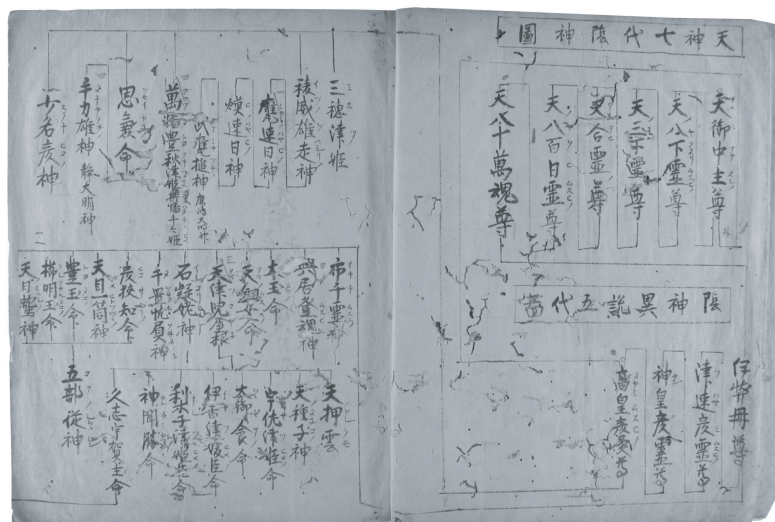




一六 神図 しんず

図書館所蔵、河野文庫一七七号。写本一冊。仮綴。共表紙。外題「神圖」内題「天神七代陽神圖」「陽神異説五代圖」「神津國本根」「天神七代陰神圖」「陰神異説五代圖」。縦三〇・五糎、横二四・六糎。四丁。楮紙。奥書に「明應元年 壬子 八月廿八日常住□殿守采女／春詮」とある。

※

(一四九二)

※

『神図』には「明應元年 壬子 八月廿八日 常住□殿守采女／春詮」の奥書があり、天神七代に関する「天神七代陽神圖」と「天神七代陰神圖」とを中心にした神々の系譜図が表わされている。中世における神々の系譜図とこれに類する図として天台神道に慈遍の『神祇玄要図』（元弘二年・一三三一。現存せず）、『神皇略文図』（同年）、『豊葦原神風和記』（興国元年・一三四〇）中の天神七代・地神五代の系譜図があり、良遍の『神祇系図』がある。また真言神道にも天神七代・地神五代の系譜の整理が伝えられ、伊勢神道には『神祇譜伝図記』がある。

『神図』はそのいずれの系譜図とも記載の形式が異なっている。なお、奥書の春詮については、『春日大社文書』一卷・文明十九年（一四八七）八月十日両郷常住神殿守榎本社遷宮雜事等請取状などに表れる「南郷方常住神殿守春詮」と考えられ、『神図』に朱で番号が付記されている神々も春日大社の祭神と関係がある。ともあれ、陰陽をもって神

祇を論ずることは当時よく行われており（『周易』を引く『山家要略記』や「日域冥神陰陽不測」という『和光同塵利益灌頂』や「有陽北斗七星有陰山王七神」という『三業相應三輪山王』等）、『神図』の天神七代地神五代の整理や、陰陽による神祇理解などからは、こうした時代的反映が見られる。

（小林寛）

【参考文献】

- 西島一郎「神皇略文図」「神道及び神道史」三十
四輯、昭和五十五年（一九八〇）
田村芳朗・末木文美士校注『神道大系 天台神道（上）』神道大系編纂会、平成二年（一九九〇）
末木文美士・水上文義・佐藤真人校注『神道大系 天台神道（下）』神道大系編纂会、平成五年（一九九三）
和多秀乗校注『神道大系 真言神道（上）』神道大系編纂会、平成五年（一九九三）
村山修一校注『神道大系 真言神道（下）』神道大系編纂会、平成四年（一九九二）
田中卓・平泉隆房他校注『神道大系 伊勢神道（上）』神道大系編纂会、平成五年（一九九三）
村岡幹生「中世春日社の神人組織」「立命館文学」五百二十一号、平成三年（一九九二）